

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24年 5月 10日現在

機関番号:15401

研究種目:基盤研究(B)

研究期間:2009 ~ 2011

課題番号:21402007

研究課題名(和文) 海外日本語学習者への運用力養成のためのシャドーイング研究-「できる」への実践-

研究課題名(英文) A Study of Shadowing for Proficiency of Japanese Language Learners in the World -Researches on Shadowing Activity in the Classrooms for Communication-

研究代表者

迫田 久美子(SAKODA KUMIKO)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号:80284131

研究成果の概要(和文):

シャドーイングとは、聴覚に入力された言語音を正確にそのまま口頭再生する作業のことであり、通訳の訓練法として知られている。この訓練法を用いて、即時的な言語産出能力の養成に効果があるかどうかを海外の日本語学習者を対象として検証した。

米国・ニュージーランド・韓国・中国・台湾・タイ・オーストリアの7カ国の中等・高等教育機関の学生に対し、複数の要因を設定し、実験調査を行った結果、効果があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文):

Shadowing is the work of recreating a speech sound precisely as it was input into one's auditory sense and it is known as a training method for simultaneous interpreters. Whether or not this method has an effect on training instantaneous speech production ability was studied with Japanese language students overseas.

Experimental research using multiple factors was conducted on students of secondary and higher education in seven countries: United States, New Zealand, South Korea, China, Taiwan, Thailand, and Austria. And the result of this research confirmed that it is effective.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2010年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2011年度	5,800,000	1,740,000	7,540,000
年度			
年度			
総計	15,100,000	4,530,000	19,630,000

研究分野:第二言語習得研究

科研費の分科・細目:日本語教育

キーワード:シャドーイング, 第二言語習得, 日本語教育, JFL, 運用能力, アウトプット, インプット, 自動化

1. 研究開始当初の背景

申請者は、1987年から現在まで日本語を第

二言語とする習得研究を行い、国内・海外の教室環境学習者や国内の自然環境学習者の

データを収集し、分析を行ってきた。それらの結果とこれまでの第二言語習得研究の結果から、a) 学習者は教師から学んだ規則とは異なる学習者独自の文法規則を構築すること b) 化石化（学習者の誤用が修正されないでそのまま残ること）には、独自の規則や母語の影響が関わっていること c) 「わかる」と「できる」のメカニズムは異なっており、運用能力をつけるためにはインプットとアウトプットの両方を強化することが必要であること、などが明らかになっている（迫田 2006）。

そこで、申請者は「わかる」を「できる」に繋げるための方法として、インプットとアウトプットの強化が実践できるシャドーイングを取り上げ、2003年から2008年の5年間をかけて、シャドーイングの効果の検証および国内の民間学校での実施可能性を検証する研究を行った。その結果から、a) シャドーイングは音読や書写に比べて、より効果が高いこと b) 高いレベルより低いレベルの学習者に効果が高いこと c) 民間の日本語教育機関の授業での取り組みにより、学習者と教師の変容が検証されたこと、などが明らかになった（迫田・松見 2005 他）。

これらの成果をふまえ、インプットが限られた海外の学習者を対象として、シャドーイングの実施可能性を検討し、その具体的な指導法とニーズに沿った教材試案を提示する。

2. 研究の目的

本研究は、以下の3点を目的として行った。

- (1) 第二言語習得研究の視点からシャドーイングのメカニズムを分析し、海外における日本語学習のニーズをふまえた運用能力養成の可能性を検討する。
- (2) 海外の教育機関でシャドーイング訓練を実施し、環境に応じた指導法を提案する。
- (3) 具体的な教材試案を作成し、レベルと

学習環境に対応した評価方法を探る。

3. 研究の方法

3年間の研究は、大まかに第一期（2009）ニーズ調査期、第二期（2010）実践研究期、第三期（2011）成果発表期の三期に分けられる。以下、期ごとに説明を加える。

◆第一期（2009）ニーズ調査期

海外の日本語学習者の実態を把握するために、各地域の教育機関を視察し、中等教育と高等教育のそれぞれのニーズを調査した。その上で、研究全体のグランドプランを策定し、2009年1月には研究関係者が広島に集合し、研究開始にあたっての研修を行った。

(1) 高等教育でのニーズ（基礎研究A）

国内から海外への実践を検討するために、学習環境を大きく高等教育と初・中等教育に分けること、タイ（タ）、中国（中）、アメリカ（米）、台湾（台）、韓国（韓）、オーストラリア（オ）の各地域での指導の共通点と相違点をつかむこと、を目標として調査を行う。

(2) 初・中等教育のニーズ（基礎研究B）

韓国では学習者の85%が初・中等教育の学生であり、海外全体の学習者の半数以上は、初・中等教育が占めている。この事実をふまえ、韓国の中等教育の現場、さらにオーストラリアの高校の現状を調査する。

既に、シャドーイングを取り入れながら授業を行っているケースから、具体的な実践報告を発表してもらい、情報交換を行う

◆第二期 実践研究期

(1) シャドーイングの実践調査

a) 担当者の研究の理解と自己実践

世界の各機関において、担当者によるシャドーイングの勉強と実際にシャドーイングを体験しながら、調査計画を立案し、パイロット調査を経て、本調査を実施した。

b) 事前調査・本調査

MLを通して、それぞれの機関での試みによる質問や結果を出しあい、よりよい調査に向けて、議論を続けた。

c) データ収集と分析

メンバー間で比較できるように、プリテストとポストテストの内容を統一し、そのための資料や器材を配送した。データ収集や分析についても、統計分析の専門を取り入れて検討を行った。

(2) 実践研究の成果発表

まだ実践段階ではあったが、台北（台湾）で開催された国際大会で一部の成果を発表し、台中（台湾）では、メンバーの所属大学で本研究を基盤としたシンポジウムを開催した。

◆第三期 成果発表期

2011年6月の日本教育心理学会の大会を皮切りに、2012年3月のカナダ・トロントでのAATJまで、日本語教育関連、言語学関連の国内外の学会や国際シンポジウムにおいて、成果発表を行った。本研究により、シャドーイングによる人形劇、映像コマーシャルのアフレコなど、海外の日本語学習者のシャドーイングの画期的な取り組みが紹介された。具体的な発表内容については、論文・口頭発表の項を参照。

4. 研究成果

初年度 2009 年度、7カ国・地域から研究協力者が広島に集合しての国際セミナーの開始を皮切りに、2010年の台北における日本語教育研究国際大会(ICJLE2010)でのパネルセッションやポスターセッションでの成果発表、同年台中で開催された国際シンポジウム、2011年の北海道で開催された日本教育心理学会、横浜で開催された日本語教育学会の

実践研究フォーラム、北京で開催された国際応用言語学会 (AILA2011)、そして2012年3月にカナダのトロントで開催された全米日本語教師協会 (AATJ) の大会でのパネルセッションを実施して、各地域での実践研究の成果発表を行った。この3年間、さまざまな研究会や講演会で招聘され、国内外の多くの方々に本プロジェクトに基づくシャドーイング研究で得られた成果を示すことによって多くの方々に関心を持っていただけた。

また、この研究成果が2012年度から開始される科研(基盤研究A)の一部として継続されることが決定した。

また、某出版社から一連のシャドーイングの研究をまとめ、出版する企画が提案され、将来的に刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

(以下、研究協力者分を除くものを記載)

1. 迫田久美子 「第二言語習得研究の深さと広がり-学習者の学び方から教師の教え方へ-」 *Japanese Studies Journal*, Vol. 27, No. 2, 査読無, 2011, pp. 1-18.
2. 木下藍子・福田規子・迫田久美子, 「シャドーイング活動におけるリスニングの意義と役割-日本語短期集中コースでの実践報告-」『*広島大学日本語教育研究*』21号, 査読無, 2011, pp. 63-68.
3. 迫田久美子, 「日本語学習者に対するシャドーイング実践研究」『*第二言語としての日本語の習得研究*』第13号, 査読無, 2010, pp. 5-21.
4. 迫田久美子・古本裕美ほか, 「シャドーイング実践におけるペア学習型と教師主導型授業の比較」『*日本語教育研究*』19号, 査読無, 2009, pp. 31-37.

[学会発表] (計30件)

(以下、研究協力者分を除くものを記載)

1. 迫田久美子, 古本裕美, フォード史子, リード真澄, 「日本語教育におけるシャドーイングの実証的研究-日本から海外へ-」 2012 AATJ Annual Spring Conference, 15th, Mar. 2012, Toronto, Canada
2. 門田修平, 李翠芳, 迫田久美子, 山内豊,

- “What has been known about shadowing in Japanese as an L2?” The 16th World Congress of Applied Linguistics, 2011, 23-28, Aug. 2011, Beijing, China
3. フェルナー真理子, 迫田久美子 「シャドーイングによってどの音声的特徴が習得しやすく、どの音声的特徴が習得しにくい」第53回日本教育心理学会, 24-26, July, 2011, 北翔大学, 札幌, 北海道
 4. タサニーメータピスイット, 松見法男, 「シャドーイング練習が日本語文章口頭再生に及ぼす影響－音読時間と発音の正確性－」第53回日本教育心理学会, 24-26, July, 2011, 北翔大学, 札幌, 北海道
 5. 近藤玲子, 古本裕美, 「シャドーイング時のスク립ト提示の有無が学習者の日本語能力向上に及ぼす効果」第53回日本教育心理学会, 24-26, July, 2011, 北翔大学, 札幌, 北海道
 6. 迫田久美子, 古本裕美, 「シャドーイングの実践報告－日本語学習者の6年間の調査を通して－」台中技術学院応用日語3rd, Aug. 2010, 台中技術学院, 台湾
 7. 迫田久美子, タサニーメータピスイット, フォード史子ほか, 「国内外の日本語学習者に対する指導法としてのシャドーイング」ICJLE2010, 31st, July - 2, Aug. 2010, Taipei, Taiwan

[図書] (計2件)

1. 迫田久美子, 朝倉書店, 「第二言語習得研究と日本語教育とのインターフェイス」『第8巻 言語と社会・教育』2010, pp.100-124.
2. 迫田久美子, ひつじ書房, 「第二言語習得研究におけるリサーチデザインとプロフィール」鎌田修他(編)『プロフィールと日本語教育』, 2009, pp.125-142.

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

迫田 久美子 (SAKODA KUMIKO)
 広島大学・大学院教育学研究科・教授
 研究者番号：80284131

(2) 研究分担者

松見 法男 (MATSUMI NORIO)
 広島大学・大学院教育学研究科・教授
 研究者番号：40263652

古本 裕美 (FURUMOTO YUMI)
 広島大学・大学院教育学研究科・助教

研究者番号：80536326

(3) 連携研究者

()

(4) 研究協力者

邱 學瑾 (Kyuu Gakukin)
 台湾・国立台中科技大学・応用日本語学科・准教授

近藤玲子 (Kondo Reiko)
 ニュージーランド・オークランド大学・日本語専任講師

崔 眞姫 (Choi Jinhui)
 韓国・白井氏文化大学・日本語学部・講師

蔡 美月 (Tsai Meiyueh)
 台湾・国立台中科技大学・応用日本語学科・講師

タサニー・メータピスイット (Tasane Methapisit)
 タイ・タマサート大学・教養学部・日本語学科・准教授

高橋恵利子 (Takahashi Eriko)
 広島大学大学院教育学研究科・博士課程後期学生

超 張 (Chou chou)
 中国・上海海事大学・外国語学院日本語学部・准教授

フェルナー・真理子 (Fellner Mariko)
 オーストリア・カール・フランツェンス大学・社会経済学部・日本語専任講師
 オーストリア・州立ユーバーゼー高等学校

フォード・史子 (Foard Fumiko)
 米国・アリゾナ州立大学・人文科学部国際文芸文化科・准教授

李 翠芳 (Lee Tsui-Fong)
 台湾・東呉大学・日本語学科・日本語専任講師

リード・真澄 (Reade Masumi)
 米国・ウッドランズ高等学校・日本語専任講師